

学校関係者評価報告書

1 自己評価の報告の概要

- ・ 保護者と教職員を対象にしたアンケート結果では、ほぼ全項目に関して肯定的な評価（A+B が90%以上）が出ている。その中で90%を若干下回るものは、「学部間での適切な引継ぎ・一貫した教育」「適切な進路指導」「情報発信」であった。
- ・ 昨年83%（A：39%、B：44%）であった「学部間での適切な引継ぎ・一貫した教育」については、87%（A：44%、B：45%）と幾分改善が見られたが、質問項目の中では最も低い。
- ・ 昨年87%（A：47%、B：40%）であった「進路指導」については、89%（A：47%、B：42%）と改善が見られた。ただ、小学部では83%と評価が低くなっている。昨年83%（A：41%、B：42%）であった「現場実習・校内実習の取り組み」については、各学部ともに95%を超え、改善が見られた。
- ・ 昨年93%であった「情報発信」については、90%をわずかに下回る結果となった。感染症の影響により行事の中止・縮小等が多く、発信頻度が低下した状況も要因の一つと考えられる。
- ・ 昨年87%であった「他機関との連携」については、感染症の影響で取り組みが難しい状況ではあったが、91%と改善が見られた。
- ・ 昨年86%程度であった「教育相談」の項目については、児童生徒に寄り添う姿勢で学校として組織的に対応した結果、90%を超え、改善が見られた。

2 評価委員の評価結果

- ・ ここ数年、各学部の目新しい試みや取り組みがあり、勢いを感じる。また、個別に丁寧に指導、支援している。
- ・ 「学部間での適切な引継ぎ」については、教職員の結果も数値が低く、学校として考えていく必要がある。

3 評価委員の提言

- ・ 「学部間での適切な引継ぎ」については、引継ぎの内容を継続しない場合にはその理由を説明する必要がある。
- ・ 「適切な進路指導」については、学部ごとの結果やどの学部から在籍しているかによる既得の進路情報量の違いを踏まえ、進路情報について質問できるフォーマット等の提供などの教示。

4 学校関係者評価を踏まえた改善方策

- ・ 「学部間での適切な引継ぎ・一貫した教育」については、年度末に確認した引継ぎ内容を年度初めに保護者に説明するとともに、1学期の懇談の機会等にも引継ぎ状況について確認するようにする。また、十分ではないと感じている具体的な内容について、アンケート等で明らかにできるように工夫していく。
- ・ 「適切な進路指導」については、提言を基に、所属学部や個に応じた進路情報が提供できるような工夫や仕組みを検討していく。
- ・ 改善点も含めて、学校の方針や取組、普段の学習活動の様子を具体的かつ適時に発信する。また、ホームページへの掲載を年度初めから計画的に行い、閲覧しやすい構成を工夫する。